

KLIS TODAY

No.
21

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

学生の主体的な大学説明会

榎本 翔

7月31日に知識情報・図書館学類独自の説明会である学類説明会、8月26日に筑波大学全体で24日から3日間にわたり催された説明会の一環である大学説明会が、それぞれ本学類で実施されました。大学説明会実行委員の学生が主体となって企画・実行するという試みも今年で5年目となり、大きな節目を迎えました。

例年、説明会は学生が余裕をもって参加できる休業期間中に行いますが、今年は授業期間中を含めて2回開催することになりました。7月の学類説明会は授業期間中の開催だったため、多くの学生に協力してもらうことができました。大きな問題や事故もなく、日常的なキャンパスの賑わいのなかで授業を受ける様子を見ていただけたのがよかったと思います。もちろん8月の大学説明会の方も、帰省中の学生も多いなかで、精一杯のおもてなしをさせていただくことができたと思っています。

今回は、今まで先輩方が考えた企画について、かつて説明会に参加してくれた新入生に4月の時点でアンケートをとり、大学説明会実行委員で協議をしてプログラムの大きな改善を図りました。いくつか運営に課題はありましたが、説明会は全体的に大変好評でした。

今はもう来年度の企画の真っ最中です。まず知識情報・図書館学類には全国各地から個性豊かな学生が集まってきますので、その多様性を活かすため、卒業生に講演を依頼したいと考えています。また遠くから来る高校生が参加しやすいようにプログラムの改善を図ると同時に、多くの受験生に知識情報・図書館学類に関心をもってもらうことができるように、Webコンテンツを使って校内の様子を見たり模擬授業を受けたりすることができるようにすることを考えています。来年度の説明会を、皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っています。



(えのもと・しょう 知識情報・図書館学類2年次)



パネルディスカッションについて

酒井 菜央

7月の学類説明会、8月の大学説明会ではパネルディスカッションの企画を担当しました。パネルディスカッションとは、講堂の壇上で学生が入試のことや大学のこと、居住形態などについてひとり10分ほどパワーポイントを用いたプレゼンを行い、その後、司会も交えて学生生活の話題についてディスカッションする企画です。学類説明会では約60分間、大学説明会では約90分間、たくさんの受験生と保護者の方々に参加していただきました。



登壇したメンバーはそれぞれAC、推薦、前期理系、前期文系（後期入試の話も含む）と入試形態が違い、また、学生宿舎春日1号棟、2号棟、自宅通学、アパートと居住形態も違う4人を集めました。このように、どのような入試形態・どのような合格後の通学形態を検討している受験生にも参考になるプレゼンを心がけました。

具体的にパネルの内容を紹介します。説明会には高校1、2年生の参加が多いため、まず受験方式の説明を行いました。出願や試験の時期を受験生の観点から、ホテル予約などの準備も含めて発表し、試験対策についても話しました。その後、宿舎やアパートの家賃、お勧めの家具配置、生活の知恵、自宅から通う際につくばに住んでいる友だちと上手につき合っていく方法などの、生活面のことを紹介しました。また、バイトや入試面接の裏話、サークル活動にも少しふれ、知識情報・図書館学類の学生がどのように生活しているかを学生目線で語れたのではないかと思います。

ディスカッションコーナーでは、司会者に振ってもらいながら五つの議題についてお話ししました。「合格してからの過ごし方」「本学（うちの学類と情報メディア創成学類では春日地区外をこういいます）の友だちとの過ごし方」「つくばに来てよかったこと」「知識情報・図書館学類の魅力」「入学してみて変わったこと」です。それぞれの観点から、楽しくディスカッションしました。

多彩なカテゴリーの話を聞いていただけたと思います。

（さかい・なお 知識情報・図書館学類1年次）



最初はお行儀よく



つくばに来てよかったことはですね！

相談コーナーQ&A

小林 正樹

相談コーナーでは、受験生の先輩にあたる在學生が、受験したそれぞれの入試の対策を中心にしつつ、さまざまな事柄について、受験生から相談を受けました。入試関係の資料や、在學生が使った参考書なども展示しました。受けた質問とその返答の一部を紹介します。「相談コーナーでのQ&A」が、少しでも読んでくださった方の参考になれば幸いです。

【前期試験、3年次編入試験】

Q よい息抜きの方法はなんでしょう？

A 自分に合ったものを自分で見つけるのが一番。区切りをつけるには時間でなく、目標を定めた方がよいです。



にぎやかだった相談コーナー

Q 理科社会の二次試験はどう対策すればよいですか？

A 基本となる用語や全体の流れをきちんと理解して自分の言葉で説明できることが大事です。経験を積むのもよいですが、先に参考書か何かを一冊読み通すことなどからはじめるとよいです。

Q パソコンの扱いに自信がないのですが、大丈夫でしょうか？

A 最初は自信のない人も多く、私自身もあまり得意ではありませんでしたが、1年生の必修科目「情報基礎実習」ではワード・エクセルなどをしっかりと勉強し、パソコンをマスターできるようになります。

【AC入試に関して】

Q 試験に向けてどんな研究をすればよいのでしょうか？

A (まず答える側が「相談コーナー」に置いてあった過去のACレポートを見せて、自分の研究を紹介した上で) 試験に向けた研究ではなく、自分の興味がある研究をした方がよいです。

Q 自己推薦書はどの程度の量が必要でしょうか？

A 特に決まりはなく、数ページで一次試験を通過した例もあれば、数十ページで通過できなかった例もあります。内容が重要です。

【推薦入試に関して】

Q 推薦入試を受けるのにやっておいたことがよいことは？

A 委員会に入る、大会に出る、作品を出すなど、いろんなことに積極的に取り組んでおくとういいます。あと、入学後の目標や展望を語れるようになっておきましょう。

(こばやし・まさき 知識情報・図書館学類 1年次)

高校生に伝えたかったこと ～スチューデント・トーク～

梅宮 朝雪

今年度の7月と8月に行われた説明会において、私は実行委員としてスチューデント・トークを企画し、学生がそれぞれの個性を活かした発表を行いました。

2度の説明会を通して、私もそれぞれ「課外活動@つくば」「わたしのなつやすみ～図書館が見たい～」という発表を行いました。二つ目の発表（「わたしのなつやすみ～図書館が見たい～」）は、図書館の話であるためか、より興味をもって聞いてもらえたように思いました。



8月上旬、佐賀県の武雄市図書館に向かいました。

ここは指定管理者としてTSUTAYAを運営するCCCが入って、図書館・歴史資料館・書店・カフェ・レンタルショップの複合施設としてリニューアルオープンしたところです。書籍の販売や内装など事前に多くの批判を目にしていたため、実際に自分の目で確かめたいという思いがありました。事前に聞いていた評判が「背の高い本棚に圧迫感を感じる」「売っている本と貸している本との区別がしづらい」等、批判的なものに偏りがちだったためか、私自身は、それほどでもないように思いました。改めて中立的な目で物事を見ることの難しさを感じました。

翌日は東京へ移動し代官山蔦谷書店に行きました。武雄市図書館の内装は蔦谷書店に似ていると聞いていたからです。店内は武雄市図書館のベースとなったことが感じられる様子でしたが、書店であるだけにより自由度の高い本の見せ方や売り方を楽しむことができました。

今回の私の図書館・書店訪問はこれで終わりですが、閉館している日に訪問してしまった「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」や、日程の都合から訪問を断念した千葉大学・同志社大学・国立国会図書館・国際子ども図書館についても紹介を行いました。

けっして笑いを誘うような発表ではなかったですが、皆さんに興味をもって聴いていただけたようで、発表後に直接声をかけてくれた人もいました。大学の長期休暇は自由度が高いですし、この学類には似た分野に興味をもっている仲間や先輩が多くいて、いろんな話を聞くことができます。また、大学図書館には勉強しきれないほどの資料が揃っています。やりたい勉強があればあるほど、夏休みは楽しいものになるはずです。説明会に来てくださった皆さんにもそれが伝われば幸いです。

（うめみや・あさゆき 知識情報・図書館学類1年次）

かすがらいふ、映像企画、展示企画

及川 和也

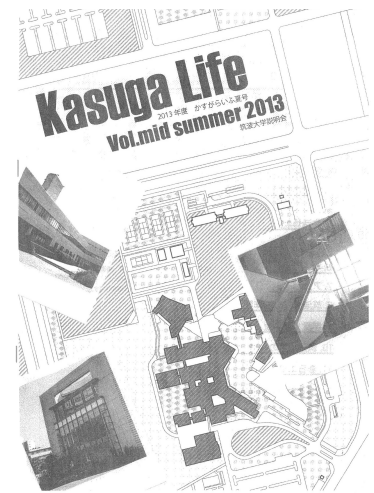
今年度の学類説明会、大学説明会において私が主に担当した企画は映像企画、展示企画と受験生向け情報誌『かすがらいふ』の編集です。

『かすがらいふ』は例年、春と夏の2回発行していますが、どちらも学生生活や学習に関して学生目線の生きた情報を満載したつくりとなっています。当然ページ数も相応のものとなり、分量も一人で書ききれそうなものではありませんので、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の学生を中心に執筆を依頼しました。また今年度は2学期制への移行をはじめ、生活や施設の様子がかなり違ってくる年でもあります。そうした情報の整合を取り、ものによっては新規項目を執筆するなどの作業も必要になりました。この冊子は知識情報・図書館学類のWeb サイトからも閲覧できますので、ぜひご覧いただければと思います。

この『かすがらいふ』と並行して、映像企画で上映する映像の制作を行いました。今年度は同企画の中心になっている教員インタビューと行事映像に加え、「説明会だけでは目にすることのできない情報を提示したい」との意図から、宿舍生活の密着取材と学内施設の紹介映像を追加しました。宿舍生活については『かすがらいふ』にも記事があるのですが、補食室（簡単な炊事ができる部屋）、個室の様子や生活の空気を感じられるよう制作しました。学内施設の紹介映像はCGも交えたショートドラマ仕立てとして、その広大さがコミカルに伝えられるようなものをめざしました。

展示企画は直前の準備となりましたが、シラバスや入試資料といった資料展示の他に、1年生が「情報基礎実習」で制作したポスター、2年生が「知識情報演習」で制作したOPACの優秀作品を展示しました。特にOPACは当日の授業公開で紹介されていたこともあり、来場者の目を惹く展示となっていました。

『かすがらいふ』の執筆・製本や展示物の依頼をはじめ、いずれも多くの方に協力していただいて無事終了することができました。ありがとうございました。今後は映像のWeb公開などメディアを活用した説明会運営も視野に入れつつ、説明会に携わりたいと思います。



「かすがらいふ」の表紙



教員インタビュー映像をみる参加者

（おいかわ・かずや 知識情報・図書館学類 1 年次）

本学類の学びの姿を見てもらう -知識情報演習と附属図書館の見学-

鈴木 美織

夏の学類説明会が7月の授業期間中に開催されると決まったとき、何かその特徴を活かせるものはないかと考えました。そこで、知識情報演習の見学企画を実施しました。講堂での模擬講義は例年実施していますが、説明会の受付が終わり講堂での説明が始まるまでの時間に、大学生が実際に受けている授業に参加者の皆さんが見学できるように実施したのが、この企画です。生の授業は、模擬講義と印象もまた異なったのではないのでしょうか。

見学対象とした「知識情報演習Ⅱ」は2年生の必修科目で、説明会の時期はその前半、レファレンスブックについて説明する内容となっています。レファレンスブックとは、図書館業務のうちのひとつ、レファレンスで用いる参考図書などです。他にも水曜の午前中に開講される授業はいくつかありましたが、高校生の皆さんに「図書館らしい」と感じられそうな講義として、この科目を選びました。

さらに、講義担当の原淳之先生から、レファレンスとはあまり関係はないのですが、図書館情報学図書館（春日エリアにある附属図書館）が所蔵するマイクロ資料の見学や体験もできたら面白いのではないかとのご意見をいただき、図書館にマイクロ資料の説明を依頼しました。マイクロ資料は、マイクロフィッシュに新聞記事などを撮影したもので、専用の機械で読み取ったり印刷したりすることができます。

当日は、午前9時から10時のあいだ、説明会の参加者の皆さんが講義のある実習室と図書館に自由に入出りできるようにしました。実習室では授業の参観をしていただき、図書館内では図書館員の方の説明を受けながら、マイクロ資料の体験や知識情報演習で説明されるレファレンスブックの見学をしていただきました。図書館で展示するレファレンスブックは、普段あまり目にしないような資料がたくさんあるのだということを感じていただけたらと思い、説明会の日に授業で紹介されるものを中心に、主要なものをリスト化して図書館員の方に集めていただきました。

参加者の皆さんにも好評だったようです。来年度も実施するかどうかは未定ですが、今回の企画で本学類での学びに少しでも興味をもていただけたら、と思います。



説明を受け「ああ、そうなんだ！」

（すずき・みさと 知識情報・図書館学類3年次）

知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞

7月30日・31日に功刀雅士さんと長尾悠真さんに「知識情報演習Ⅰ優秀作品賞」が贈られました。この演習は図書館情報学の基本を学びながら検索システムであるOPACを作るものです。受賞者のお二人に作品について語ってもらいました。

OPAC作成を終えて

功刀 雅士

私がOPACの作成に際して意識したのが“使いやすさ”と“ユーザの目を惹くユニークさ”です。まず次に挙げるのが、使いやすさを意識した点です。

- トップページは、検索窓とロゴのみ。
- 詳細検索は別タブ。検索項目の欄に無駄に説明文を書かないようにした。
- 検索結果画面では、表示件数を選べるようにする。
- 検索結果の項目の並べ替えを行えるようにする。
- 検索結果からさらに検索ワードを入力し絞込みを行えるようにする。

またさまざまなOPACを観察し他にはないユニークな機能を考えました。それは“検索ワードを入力している最中に、その時点の検索結果が画面下に流れてくる”ものです。どれだけの検索結果が得られるか、目的に合うものがあるかなどを検索前にある程度判断できます。

今回優秀賞をいただくことができたのは上記のような工夫が大きかったと思います。これからも、使う人の立場から見た、利用しやすいシステムの制作活動を行いたいです。



作品のトップページ

（くぬぎ・まさし 知識情報・図書館学類 2 年次）

OPACの制作を通じて

長尾 悠真

今回のOPAC製作では実用に堪えるようなOPACをめざし、自分で使用するだけでなく、友人にも実際に使用してもらうなどしてユーザビリティの向上に努めました。その結果、検索ボタンとクリアボタンを押し間違えないように検索ボタンを大きくしたり、検索する際にひらがなとカタカナで検索結果が同じになる（カタカナではヒットするのに、ひらがなではヒットしないというようなことがない）ようにしたり、細かな部分に気を配ったつくりになっています。また、NDL-OPACのマイリスト機能を見て、一時的に気になる資料をリストアップするための機能があると便利だと感じたため、実装しました。



与えられた課題をこなし、最後に完成したOPACを見たとき、ひとつのプログラムを完成させた達成感を感じ、またプログラミングの楽しさを垣間見ることができた気がします。

（ながお・ゆうま 知識情報・図書館学類 2 年次）

本学類には図書館に大きな興味をもつ学生が多く、なかには自分でさまざまな図書館を見て回る人もいます。ここでは4年生の床井さんに、「図書館ツアー」について書いてもらいました。p.2の「スチューデント・トーク」とあわせて読むとさらに興味深いかもしれません。

図書館ツアーに行こう

床井 満里菜

全国、津々浦々、図書館は存在します。公共図書館だけでも2,800館以上存在するのです。せっかく図書館情報学を学ぶ学類へ来ましたならば、図書館ツアーで、各地の図書館を巡ってみてはどうでしょうか？図書館によって面白いサービスをしていたり、図書館の内装が綺麗だったり見所が沢山あります。では、図書館ツアーはどうやって行きましょうか？個人でぶらり旅もよし、友だちと行くもよし。しかし、せっかく行くならいろんな人と一緒に行くことをお勧めします。図書館ツアーに行く団体がいくつかあります。今回はその団体についてご紹介します。

例えばALIS。Around Library and Information Scienceの略です〔ALISについては本誌No.12、16も参照〕。筑波大学を拠点に図書館に関する勉強会やイベントを開催しています。学生が主体となっており、図書館について勉強したいとか、図書館ツアーしたいとか、そういう人を集めて何かしたいというときに呼びかける手助けともなります。

それからLifo。図書館員若手の会です。若手の図書館職員さんを中心に全国各地で活発に活動しています。帰省中や旅先で丁度イベントをやっているということもあるので、いつでもどこでもイベントに参加できる気安さがあります。

少し毛色が変わってSLiic(学校図書館プロジェクト)。学校図書館について研修会やワークショップなどを開催しています。小中学校の図書館が中心でより詳しい話が聞けるのではないかと思います。LifoやSLiicは社会人の方が多いので、実際の現場のお話を聞いて、知見を広げることができます。

今回紹介したのは3団体でしたが、他にも図書館に関する団体やグループがあります。また、団体間には繋がりがあったりするので、ひとつのイベント参加から、図書館とも人とも繋がりが広がること間違いなしです。今年の春には、図書館ツアーをきっかけに、別の図書館ツアーにも行きませんか？というお誘いがあり、武蔵野プレイスに伺いました。武蔵野プレイスは平成23年夏に開館したばかりの複合機能施設で、新しい図書館のあり方に一石を投じたお話も聞くことができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

これを機に、いろんな図書館へ出かけてみませんか？



武蔵野プレイスの一室

(とこい・まりな 知識情報・図書館学類4年次)